

**主 題：七つの教会への使信5、サルデス教会ーいのちのない死んだ教会**  
**聖書箇所：黙示録 3章1－6節**

七つの教会への使信を学び始めて今日は5回目になります。サルデス教会に宛てた神からの使信、メッセージです。3章の1節から見ていきましょう。

**A. 主の使信 3：1**

いつものように、この使信はだれに宛てて記されたものか、また、だれがこれを記したのか、そのことが最初に記されています。

**1. 宛先：サルデス教会**

「また、サルデスにある教会の御使いに書き送れ。」、この使信の宛先はサルデスの教会であると書かれています。サルデスという町は非常に裕福な町でした。毛織物や金細工、毛氈の技術が盛んで商業が栄えたところでした。また、ここは交通の要衝でもあったため行政の中心でもありました。サルデスはペルシャ、セレウコス朝の支配を経験し、紀元前189年にはローマの支配下に置かれました。この町の教会に宛ててこの手紙は記されているのです。

**2. 送り主：主**

送り主は主ご自身ですが、主に関してこのような二つの描写がされています。「『神の七つの御霊、および七つの星を持つ方がこう言われる。』」と。

- ・神の七つの御霊
- ・七つの星を持つ方

これはもう1章で見て来ました。「七つの御霊」は聖霊なる神のことでした。聖霊なる神がこの世で働きを為しておられることを教えています。「七つの星を持つ」とは教会のリーダーたちを指しているのです、主ご自身が教会の支配者であること、教会は主に属するもの、主のものであると見ました。このような神であることを明らかにし、その神がこのメッセージをサルデスの教会に送っているというのです。

**B. 主の評価 3：1c、2**

1節の後半からこの教会への主の評価が記されています。「わたしは、あなたの行いを知っている。」と、ここにもこれまで何度も見て来た「知っている」ということばがあります(2：9、13、19、3：1)。それぞれの教会にこのメッセージが送られていくのですが、そのメッセージの始まりに「知っている」と記されています。神はすべてのことをご存じだということです。特に、あなたの行いを知っているということ明らかにされました。

この箇所には、サルデスの教会に対する神からの称賛は何も記されていないことに気付かれたと思います。この教会の様々な行いを神は誉めておられません。却って、教会に対する非難をされています。ここに批判的評価しか記されていないということは驚きです。どのように記されているのか？見ていきましょう。

**1. 霊的に死んでいる：あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる**

このサルデス教会への神の評価は「あなたがたは死んでいる」でした。よく見ていただきたいのですが、「生きてるとされている」と書かれています。この「されている」というところには「名前」という名詞が使われています。人の名前のことです。なぜなら、ここで言われているのは「評判」のことだからです。あなたは「生きている」という評判を得ているが…ということです。主が言われることは、「あなたがたの教会に対して人々が為している評判をわたしは知っている。」ということです。この教会は「生きている」という評判を受けていたのです。「生きている」とはどういうことでしょうか？周りの人たちはこの教会を見て「この教会は主に喜ばれている教会だ、この教会は神の栄光を現わしているすばらしい教会だ。」とそのように評価していたのです。主はそのことを知っている、そのことがここに記されているのです。

まず、皆さんに覚えておいていただきたいことは、確かに、見た目にはこの教会は怠けていないでいろいろな働きをしていましたから、人々はそれを見て「すごい！」と言ったのです。ところが、主はそのような評判によって評価を下すような方ではありません。主は教会の一人ひとりの心をご存じなのです。そこで、主は教会の本当の様子を知っておられるゆえに、先ほど見たような評価を下されたのです。「あなたがたは死んでいる」と。「霊的に死んでいる」ということです。肉体的には生きていても霊的には死んでいると。

☆「霊的に死んでいる」とは？

## 1) 未信者のこと

主イエスの救いに与っていない人たちです。この人たちは「霊的に死んでいる」と言います。パウロはこのように言っています。エペソ2：1「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、」と。イエスの罪の赦しをいただく前の状態は、肉体的には生きていてもそれぞれは「自分の罪過と罪との中に死んでいた」、霊的には死んでいたのです。いのちの源である神と繋がっていないゆえに、その神からのいのちをいただけない状態です。救いに与っていない人たち、まだ、イエスの救いを受けていない人たちは霊的に死んでいるというのです。

## 2) 人の霊的状态

もう一つは、その人の霊的状态を指します。クリスチャンでもそのように言われます。その人の内側の霊的状态のことです。ラオデキヤの教会に対して主は「なまぬるい」と言われましたが、同じです。真の活力を失ってしまって、純粋な御霊の実を結んでいない状態です。霊的な死の状態、それが教会の中に浸透していた、それがこのサルデスの教会の状態だったのです。このような教会はサルデスだけではありません。どの時代でもどの場所においてもそのような教会は存在します。願わくは、私たちがそのような評価を受けないことです。

「教会」とは建物を指していません。そこに属している人間のことで、サルデスの教会はそこに属している人たちの信仰の状態が非常に危うかったというのです。

### ◎「霊的に死んでいる人」とは？

**\* 救いを喜び感謝していない** : この人は自分が救われたことを感謝していないし、また、人が救われたということを聞いても関心を示しません。人が救われること以上にすばらしい奇蹟はありません。しかし、それに全く無感動、霊的に死んでしまっているからです。生きている人は自分の救いを感謝しているだけでなく、人の救いを何よりも喜びます。今、聞いたことをご自分にあてはめてみてください。後に見ますが、だれも「自分は霊的に死んでいる」とは思っていない。主がそう言われたのです。あなたは自分の信仰は生きているかと思っているかもしれませんが、いくつかの例を挙げますから、それを自分にあてはめてみてください。本当にあなたの信仰は生きているのか？それとも死んでしまっているのか？死にかけているのか？救いに対してどうですか？感謝していますか？人々の救いに関心をもっていますか？私たちの愛する者たちが滅びに向かっていて、それに対して全く関心を払わないというのはおかしいと思いませんか？私たちは行くところを知っています。世の中でどんなに成功していても救いを得ていなければ彼らは間違いなく永遠の地獄に向かっています。何としてもこの人たちが救いに与ってほしいと、もちろん、私たちは人を救うことができません。しかし、祈ることができるし伝えることができます。その熱意を失っていませんか？

霊的に死んでいる人は、救いを喜びもしないし感謝することもしない。

**\* みことばを愛していないし、その権威にひれ伏していない** : 霊的に死んでいる人は、みことばへの愛が薄れその権威を認めません。もしかすると、その人は聖書とそれ以外のものを並べて同等に置いているかもしれません。いや、聖書以上に、大切にしているものがあるかもしれません。霊的に生きている人はみことばを聞くことを喜び、その教えに喜んで従おうとしています。神のおことばを聞きたいし、神の真理を知りたいし、それに喜んで従っていこうとしている人たちです。

**\* 主を第一としていない** : 霊的に死んでいる人は、神のみこころよりも自分の考えや願望を優先している人です。神を喜ばせることよりも自分を喜ばせることを優先しています。霊的に死んでいます。神を喜ばせるようにと生まれ変わった私たちがそれに関して無関心なのです。かつての私たちは自分の願望を満たすことが中心でした。霊的に生きている人は神を喜ばせることが最優先事項です。いつもそのことを考えて生きています。どうすればこの状況で神を喜ばせることができるのか？どうすればもっと神を喜ばせることができるのか？と、そのことを考えながら生きています。いつも優先順位の一歩は神なのです。いつも神を中心に物事を考えているのです。

**\* 霊的礼拝をささげない** : 霊的に死んでいる人も礼拝をささげます。今見て来たように、サルデス教会の人たちも一見するとすばらしい信仰者でしたが、神は「死んでいる」と言われました。いつの間にか、クリスチャンたちは礼拝に参加することが目的になってしまって、何のための礼拝であるのかを忘れてしまっているのです。礼拝に来れば何か責任を果たしたような、それで十分であるかのように思っています。霊的に生きている人たちは、主への感謝と喜びをもって、また、恐れをもって主を崇めている人たちです。このことはよく考えなければいけません。私たちがこうして礼拝に集まって来ます。自分に問い掛けてみる必要があります。何のために礼拝に来たのか？と。

私が信仰をもって間もない頃、礼拝中はいつも居眠りをしていました。なぜなら、礼拝後の午後の働きのために休息を得るためでした。夕方までずっと奉仕があるのでそのために休んでおこうと…。そんな思いを持っていたのは私だけではありません。他にもいました。つまり、私は礼拝が何であるかが分

かっていなかったのです。救われた目的も分かっていなかった。霊的礼拝をささげるためには心が大切だということは皆分かっています。でも、霊的礼拝をささげるためには私たちのからだも大切です。どういう意味か？あなたはゆっくり休息を取って礼拝に来ていますか？もし、私たちがこの社会にあって、明日とても大切な人と面談することになっているなら、その前日から私たちは備えをします。体調を整えゆっくり休息を取ります。失礼なことがあってはならないからと一生懸命気を配りながらベストの状態を臨もうとします。

神を礼拝するに当たって皆さんはどうでしょう？土曜日はどのように過ごしていますか？何時頃床に就かれますか？もし、私たちが本当に心からの礼拝をささげたい、内側のすべてをもって、称賛に値する唯一の方を誉め称えたいと思うなら、私たちは心とともに、からだも十分な休息をもって備えるはず。そうではありませんか？世の人に対してはそうしていながら、どうして神に対してはしないのでしょうか？こうしてともに集まる公同の礼拝は一週間に一回だけです。日々の生活で私たちは礼拝を継続しますが、ともに集まるのはこの週の初めのキリストの復活を記念したこの朝です。あなたにとってこの時が最も楽しみであり、最も喜びであり、この時間のこの集まりを心待ちにしておられますか？かつてはそうだった、でも、何かが起こっていつの間にかそういう思いがなくなってしまう、もしそうなら、サルデスの教会が陥っていたのはまさにそれなのです。

**\* 神への恐れをもっていない** : 恐らく、彼らは神の目ではなく人の目を意識して行動しているでしょう。なぜなら、本当に霊的に生きている人は、人がどう見るかとか、人がどう思うかよりも、すべてを見ておられる神を恐れて、その方のために最善を尽くそうとしているはず。です。

いくつかのことを今見て来ました、ご自分に問い掛けてみてください。今見て来たように、霊的に死んでいる人たちがたくさん集まっている教会はこのような教会でしょう。救いを喜ばない教会、みことばに服従しない教会、主を第一としない教会、霊的礼拝をささげない教会、神よりも人を恐れる教会、このサルデスの教会は一日にしてこのようになったのではありません。まさに、私たちの病と同じです。気付かないうちに病が忍びこんで来るのです。霊的な病がその人たちのうちに入り込んで、いつの間にかかつて持っていた主に対する思いが消えてしまっているのです。もうすでに、私たちはいくつかの教会にそのことを見て来ました。これは過去のことではありません。今の私たちも気を付けなければいけない問題です。

### **\* 霊的死は、巧妙にあなたの心に入り込む**

多くの偽教師たちが入り込んで来て、いろいろな教えをもって教会を混乱させます。パウロはこのように言います。Ⅱテモテ3：5「見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。」、教会の中にも、表面的にはとても霊的に見える人たちがいます。でも、実は霊的でも何でもないのです。パウロは警告を發します。警鐘を鳴らします。「こういう人々を避けなさい」と。また、テトス1：16でも「彼らは、神を知っていると口では言いますが、行いでは否定しています。実に忌まわしく、不従順で、どんな良いわざにも不適格です。」と言っています。このような人たちが教会の中に入り込んで来て、教会員を惑わしていくのです。

なぜ、このようなことが起こるのか？サタンのわざです。見かけは非常に信仰的であり霊的であったパリサイ人たちのことを思い出してください。主が彼らに対してどんなことを言われたのか？ヨハネ8：44「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」、彼らは教会に入り込んで来てりっぱなことを言うかもしれないが、彼らがやろうとしていることは、人々を混乱に陥れて人々の信仰が冷え切って神から離れてしまうことでした。実のところは、彼らはサタンの使いであると言うのです。

ですから、イエスが下されたこの評価を私たちは真剣に考えなければいけません。そして、

### **\* この評価を裏付けることが記されています**

#### **2. 不完全な働き 2節**

2節の後半に「わたしは、あなたの行いが、わたしの神の御前に全うされたとは見ていない。」と、このように主が言われています。この「全うされた」という動詞を見てください。このことばは新約聖書に86回出て来ますが、このような訳がされています。たとえば、使徒14：26「そこから船でアンテオケに帰った。そこは、彼らがいま成し遂げた働きのために、以前神の恵みにゆだねられて送り出された所であった。」、「成し遂げた」と訳しています。神は「あなたの行いが神の御前に全うされたとは見ていない」と言われたのです。「成し遂げたとは見ていない」と言うのです。ギリシャ語の権威、A・T・ロバートソン博士はこのように言います。「彼らの働きは神の基準に到達していない。」と。

ということは、サルデス教会の人たちは、自分たちの熱心な働きが主に喜ばれていると信じて疑って

いなかったのです。ところが、主が言われることは「実は、あなたがたの働きは神に喜ばれていない」でした。それがこの2節の後半に記されていることです。自分たちは喜ばれていると思っていた、でも、心の隅々までご覧になっている神は「わたしはあなたがたの働きを喜んでいない」でした。

旧約聖書を見ても繰り返し教えられていることは、多くの人たちが確かに見かけは神が喜ばれることをしているけれど、実は、神は喜んでおられなかったというケースです。ダビデ王が記した詩篇51篇を見てもそのことが分かります。16-17節「:16 たとい私がささげても、まことに、あなたはいけにえを喜ばれません。全焼のいけにえを、望まれません。」、いけにえをささげることは神が喜ばれることだが、いけにえをささげても神は喜ばれない。その理由が次に書かれています。「:17 神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。」、形だけ立派でも、神が言われた行動を、また、行為をしていたとしても、心が伴っていなければ神はお喜びにならない、神の関心はあなたの心だと言います。神の前に本当に砕かれて、神の前に自分の罪深さに気付かされて、そのことを本当に悔いて神の救いを喜んでいて、心の内側から神を愛するゆえに出て来る喜び、感謝が動機となっているなら神は喜んでくださる。でも、その心が冷え切っているのに一生懸命見える働きをしても神は喜んでくださらない。

アモス書5：21-27にもこのように書かれています。「:21 わたしはあなたがたの祭りを憎み、退ける。あなたがたのきよめの集会のときのかおりも、わたしは、かぎたくない。:22 たとい、あなたがたが全焼のいけにえや、穀物のささげ物をわたしにささげても、わたしはこれらを喜ばない。あなたがたの肥えた家畜の和解のいけにえにも、目もくれない。:23 あなたがたの歌の騒ぎを、わたしから遠ざけよ。わたしはあなたがたの琴の音を聞きたくない。:24 公義を水のように、正義をいつも水の流れる川のように、流れさせよ。:25 「イスラエルの家よ。あなたがたは、荒野にいた四十年の間に、ほふられた獣とささげ物をわたしにささげたことがあったか。:26 あなたがたはあなたがたの王サクテと、あなたがたのために造った星の神、キウンの像をかついでいた。:27 わたしはあなたがたを、ダマスコのかなたへ捕らえ移す」とその名を万軍の神、【主】という方が仰せられる。」、なぜ、神はこのようにことごとくすべてのものを拒まれたのか？それは彼らの心の中にあった罪です。形は神に喜ばれることをしているようでも、心の中は全然違ったのです。5：14には「:14 善を求めよ。悪を求めな。そうすれば、あなたがたは生き、あなたがたが言うように、万軍の神、【主】が、あなたがたとともにおられよう。」とあります。ホセア書6：6にも「わたしは誠実を喜ぶが、いけにえは喜ばない。全焼のいけにえより、むしろ神を知ることを喜ぶ。」とある通りです。

まとめましょう。神の関心はあなたの心です。本当にあなたが神の前を正しく歩んでいるなら、喜びを持って感謝を持って恐れを持って主に従っているなら、主は喜んでくださる。しかし、心が神に正しくない状態で、神に喜ばれることをしても神はお喜びにならないのです。問題は心です。どのような心の状態で主に従っているか？どんな心でこの日を歩んでいるか？です。

「霊的に死んでいる」とは恐ろしい評価です。しかし、それは主が彼らの心を、本当のことを知っておられるゆえの正しい評価だったのです。ですから、このサルデス教会はもしかすると立派なことを言っていたかもしれませぬ。でも、

・ことばだけの空しい教会でした

・罪が浸透してしまっていた教会でした。そのような人たちが集まっていたのです。

その上で、主は奨励を与えています。

### C. 主の奨励 3：2, 3

2, 3節に五つの命令があります。これらの彼らの問題点をすべてご存じである主が、このような励ましを与えます。なぜなら、全員が霊的に死んでいたのではありません。数は少なかったのですが、この教会の中にも神を愛して喜んで従っている人たちがいたのです。そこで主は彼らに五つの命令を与えます。

#### 1. 目をさましなさい 2節

これは現在形の命令です。油断することなく注意し続けていきなさいと言います。なぜ、この命令が初めにあるのか？最初に言ったように、この町は二度に亘って敵に征服されています。紀元前549年と紀元前218年です。紀元前549年には、ペルシャ王クロスによって滅ぼされてペルシャの支配下になっています。紀元前218年には、アンテオコスによって占領されその後ギリシャが治めることとなります。なぜ、このようなこと起こってしまったのか？大切なところなのでよく聞いてください。

もともとこのサルデスという町は険しい山頂に建てられていました。高さは大体450メートル位で聳え立った山頂に城壁があったのです。両脇は絶壁でした。ですから、どう考えてもここに敵が攻め入ってくるのは不可能であるとみな思っていました。難攻不落の城壁であると。では、なぜ、このサルデスが二度に亘って滅んだのか？紀元前549年にクロス王によって滅ぼされますが、ある時、サルデスの兵士が城壁の上からヘルメットを落とします。それを上から取りに来た兵士がいます。彼は岸壁を降

りて来て、また昇って行きました。それを見ていた兵士が「これが城壁を打ち破る手段だ」と言って、少数の人数を集めて彼らも同じようにその岸壁を上って行き、その城壁に辿り着いたとき、そこには守備隊が全くいなかったのです。城壁を守っている兵士は一人もいなかったのです。そして、その町は滅びてしまったのです。そのようなことがあったのです。

その後、ペルシャの支配からアレキサンダー大王の時代になります。この大王の支配下に置かれたサルデスはギリシャの文化都市になりました。大王が死んだ後、権力争いが起こって、アカイオスはアンテオコスと戦って、アカイオスはサルデスの町に約1年間立て籠もります。そして、ラゴラスというクレタ島の住民であった人物が、この城壁のもろいところを見つけて、わずか15人で岸壁を登って行って城壁の中に入ります。その時も前回と全く同じです。そこを守っている兵士はだれもいなかったのです。そこで15人は中に入り城壁の扉を内側から開けます。この町はこうして滅んでしまったのです。

この2回の敗北は何が原因だったのか？共通しています。どちらも人々の慢心から来る怠慢でした。自分たちの町は絶対に滅びないと…。歴史から学んでいなかったのです。このサルデスの教会は外部からの迫害を受けていません。目立った迫害を見ることはできません。この教会の一番大きな問題は、外部ではなく、内部にあったのです。教会のクリスチャンたちの信仰が問題だったのです。その信仰が教会を弱体化させたのです。だから、「目をさましなさい。」と神は言われたのです。眠りから覚めなさいということです。そして、みことばの真理によって自分の心を、また、教会を吟味しなさいと言われる。本当に聖書に立って私は生きているのかどうか？神のおことばに従って私は忠実に生きているのかどうか？私たちの教会は神のみことばに沿っているのかどうか？そのことをきちんと吟味しなさいと。

## 2. カづけなさい 2節

「死にかけているほかの人たちをカづけなさい。」とあります。彼らを支え、強めて上げなさいということです。小さな霊的な炎が消えるのではなくそれが再び燃え上がっていくように、ちょうど、薪が燃え尽きて燠の状態になったとき、空気を送るとまた燃え上がっていくように、そのようにこの教会の中であって人々をカづけて上げなさいと言うのです。信仰者の皆さん、あなたがたがしっかりとこの群れにあって、霊的に死にかけている人たちがもう一度よみがえって来るように、彼らを強めて上げなさいと。

## 3. 思い出しなさい 3節

3節「だから、あなたがどのように受け、また聞いたのかを思い出しなさい。」、この命令も現在形で記されています。…思い出し続けていなさいということです。何のことでしょう？まず、神から与えられた救いのメッセージ、福音です。それを覚え続けていなさい、忘れないようにしなさい、どんなに大きな恵みによってこの救いに与っているのか？そのことを忘れないようにしなさいと言います。

## 4. 堅く守り 3節

「それを堅く守り、」、救いに与るためにどのようなメッセージを聞いていたのか？そのみことばをしっかりと思い出しなさい、その上でその真理にしっかりと立ち続けていきなさいと言います。

## 5. 悔い改めなさい 3節

「また悔い改めなさい。」とあります。あなたがもし間違った歩みをしているなら、神の前を正しく歩んでいないなら、悔い改めなさい。何度でも悔い改めて主の前に正しいことをしていきなさいと。

この五つの命令を見た時、主が教えておられることはこういうことです。「みことばに立ち返る」ということです。 \*信仰が強められるため、成長するためには、

(1) みことばの真理に常に立つこと : 神のことばに立たないでどのようにして成長できるでしょう？神のおことばを聞くことなくして成長することなど有り得ません。成長しようと思うなら、神のことばをしっかりと学び、その真理に立つことです。

### (2) 真理を実践すること

これ以外の方法で信仰は成長しません。特別の体験をしたとしてもそれは一瞬のうちに消えていってしまいます。主が私たちに約束して教えておられることは、神のおことばを学びその真理に立ちその真理を行なうことです。そうして信仰は成長するのです。それをしなさい、あなたがそれをしていないなら悔い改めなさいと言います。

あなたの信仰は確実に周りの人に影響を及ぼします。あなたの家庭にあってもそうです。私たちがいつも思うことは、どのレベルにあっても「私以外の人が変わらなければいけない」です。神は「あなたが変わりなさい」と言われます。私たちは天に行くまで変わり続けていく必要があります。もし、あなたが「どうぞ、～さんを変えてください」と祈っているなら、あなたは大切なことを見落としています。まず何よりも「主よ、私を変えていってください。」でなければなりません。あなたが主に喜ばれる者にならなければ、間違いなくあなたは良い影響を良い証をしていないからです。家庭においても教会においても、問題は自分かもしれないと考えたことがありますか？私たちが考えなければいけないことは自分自身です。自分が主の前にどのように生きているか？です。

そして、主がここで再び教えてくださったことは、このように「みことばに立ち返りなさい」ということです。そして、このように五つの命令を与えて、なぜ、主がこのように言われたのかと言うと、このことによって「霊的覚醒を経験するから」です。あなた自身の中に霊的リバイバルが起こって来るのです。神が喜ばれることを為すときに神の働きが始まるのです。みことばに立って生きていこうとする、みことばを神の助けをいただきながら実践していこうとする、そのときに神はあなたの生活を変えて、あなたを変えてあなたを用いていってくださるのです。

ですから、信仰者の皆さん、あなたは自分自身に問い掛けなければいけません。自分は本当に霊的に生きているのかどうか？です。もし、あなたがそのことをしなければ警告が続いています。

#### D. 主の警告 3 : 3

「もし、目をさまさなければ、わたしは盗人のように来る。あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。」と、これは「さばき」のことです。そのさばきがいつ教会に及ぶか分からない、そのさばきがいつあなたに及ぶか分からないということです。これは再臨のことではありません。神がいつあなたに対して「もう十分だ」と言ってさばきを下されるか分からないという警告です。悔い改めなさい、いつまで眠っているのか？と、イエスはあなたの罪のためにいのちを捨てた、それはあなたが救われてから後怠慢な生活をしてもいいという、そのようなことのためではない、目を覚ましなさい！と言うのです。

#### E. 主の約束 3 : 4, 5

警告を与えた後、4, 5節に主のすばらしい約束があります。先ほども言ったように、この教会には主に従っている者たちがいたからです。彼らに対するすばらしい約束が書かれています。4, 5節「:4しかし、サルデスには、その衣を汚さなかった者が幾人かいる。彼らは白い衣を着て、わたしとともに歩む。彼らはそれにふさわしい者だからである。:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表す。」「衣を汚さなかった者」、「勝利を得る者」は救われている人たちのことです。

##### 1. 「衣を汚さなかった者」への約束

彼らには「白い衣を着て、わたしとともに歩む。」と約束されています。なぜ、それが許されているのか？理由が書かれています。「彼らはそれにふさわしい者だからである。」と。汚れた衣とは、神の名誉を汚したのです。「白い衣」はどんなときに人々は着たのか？それは特別なときです。結婚式や祭りです。また、戦いに勝利した者たちも白い衣を身に着けました。私たちクリスチャンは「キリストの花嫁である」と聖書は教えます。私たちはイエスが迎えに来てくださるときを待っています。それを「結婚式」と言います。花婿であるイエスが花嫁である教会、クリスチャンを迎えに来てくださる、その日を待っているのです。花嫁である私たちは当然、その白い衣を着るのにふさわしい者です。

また、戦いに勝利した者、私たちはもうイエスによって戦いに勝利しました。罪に対して、さばきに対して、死に対して、サタンに対して、私たちはもう勝利を得たのです。だから、勝利を得た者として白い衣を着る権利があるのです。

また、この「白い衣」というと「義認」を意味します。聖められたことを意味します。私たちは神によって罪が赦され義とされた者として、それにふさわしい白い衣を着る権利があるのです。それが神がクリスチャンたちに約束されたことです。

##### 2. 「勝利を得る者」に対する約束

###### 1) 白い衣を着せられる

###### 2) 彼の名をいのちの書から消すことはしない

5節を見ると「彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。」と書かれています。ここには否定語が二つ並んでいます。二重否定です。強調しているのです。「絶対にあり得ないことだ」と強調するのは、何があり得ないのか？いのちの書からクリスチャンの名が消されることは絶対にないというのが主の約束です。救いに与った者たちは永遠に主の祝福の中にいるのです。

###### 3) 彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表わす

この「言い表わす」とは「公言する、明言する、人々の前で明らかにする」ということです。このことばはイエスがこのように言われた中で使われています。マタイ 10 : 32 「ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。」、ルカ 12 : 8 でも「そこで、あなたがたに言います。だれでも、わたしを人の前で認める者は、人の子もまた、その人を神の御使いたちの前で認めます。」とあります。神を人々の前で認める人は神がその人を神の前で認めてくれるというのです。そのようにイエスは教えられました。ということは、私たちクリスチャンは人々の前で「私はイエスさまによって救われたのです。イエスさまは私の神なんです。私の救い主です。」と告白する者なのです。確かに、いろいろな人たちが教会にはいます。人前で緊張するあがり症の人、思っているようになかな

かうまくしゃべれない人もいます。また、逆にそのようなことが全く苦痛でない人もいます。いろいろなタイプの人がいるとしても、皆に共通していることは、それが大勢であっても少数であっても、イエスによって救われた者たちは、自分が救われたこと、イエスが私の神であることをだれかに話すということです。「私はだれにもしゃべりません。自分の中だけに秘めておきます。」というそのような信仰者はいません。イエス・キリストを信じた人は、自分がイエスを信じたことを告白します。告白することによって救われるのではなく、救われている者は告白するのです。それが救われた人です。

そこで主は言われます。「その人をわたしは父なる神の前で、無数の天使たちの前で『これはわたしの愛する者だ』と言い表わす」と。その様子を皆さん描くことができるでしょうか？父なる神の前で、無数の天使たちの前で主ご自身が「わたしはこの人を愛している」とあなたの名を呼んでくださるのです。このような祝福に私たちクリスチャンは与ったのです。そんな日がやって来るのです。私たちは言うかもしれません。「神さま、私は本当に罪深くて弱くて愚かな者です。」と。神はそれを知った上でこの救いをくださったのです。そして、その神の前であなたの名を呼んでくださるのです。それがこのクリスチャンたちに与えられたすばらしい祝福でした。

#### F. 使信への傾聴 3 : 6

そして、最後に6節「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」、またこのエンディングで終わります。すべての教会に対する勧め、チャレンジで終わるのです。「主が言われることに耳を傾けなさい」というチャレンジです。あなたの信仰はどうか？霊的に眠っていないか？そのチャレンジで終わります。もし、そうなら、悔い改めなさいと言います。どうぞ、そのチャレンジを受け入れてください。この機会があなたの信仰の吟味の機会になるように。そして、もし、あなたの信仰に冷え切った部分があるなら、かつてのあなたと違うところがあるなら、悔い改めて立ち返ることです。主は赦してくださりあなたを新しくしてくださる。信仰者の皆さん、私たちはやり直せるのです。信仰が燃えていたあの時に再び戻って、いや、それ以上の信仰者として歩むことができます。

でも、そのためには、自分を正しく吟味して、主が言われることに耳を傾けてそれを実践することです。あなたがそのことを今日してくださることを心から願います。霊的に死んでいるなら目覚めることです。そして、主のすばらしさを証する者として今日から歩み始めることです。そのことを心から願います。

#### 《考えましょう》

1. 「霊的に死んでいる」と評価されたサルデスの教会ですが、その特徴を挙げてください。
2. この教会にもまだ「霊的に死んでいない」クリスチャンたちがいました。教会に対して何を行なうようにと、主は彼らに命じられましたか？
3. 霊的に死なないためにはどうすれば良いのでしょうか？
4. クリスチャンに約束された祝福を記してください。